



制度構築の政治経済学

— 期待実現社会に向けて —

Political Economy of Institutional Construction: Toward an Expectation - Realizing Society

News Letter: G-COE GLOPE II, No. 15, August, 2012

巻頭言

「International Symposium on Political Economy」

G-COE GLOPEII 拠点代表者

田中 愛治

本年度は本拠点「制度構築の政治経済学 (GLOPEII)」の最終年度になる。我々は最終年度である本年度を、これまでの4年間に続けてきた本拠点の教育活動の成果を報告していくためのまとめの年と捉えている。その最終年度の端緒を切る形で本拠点は「International Symposium on Global Political Economy」と題する国際シンポジウムを、2012年4月16日に開催致した。このシンポジウムは、世界政治学会 (IPSA: International Political Science Association) と日本政治学会と本拠点との共催で開催されたものであり、サントリー文化財団のご後援をいただいて開催した。講演も討論も全て英語であったが、同時通訳をつけてかなり多くの研究者ならびに在京の大使館の政治および経済担当の書記官の参加が見られた。

講演は世界政治学会 (IPSA) の会長でヨーロッパにおける比較デモクラシー論で知られているレオナルド・モリーノ教授 (イタリア・LUISS) が「EU 金融危機とデモクラシーの危機」について講演した。IPSA 副会長で国際政治経済学の第一人者ヘレン・ミルナー教授 (アメリカ・Princeton University) が世界の政治経済の状況について講演した。討論者には、わが国の国際政治経済学の第一人者で日本国際政治学会理事長の古城佳子教授 (東京大学) がミルナー教授のレクチャーについて詳細なコメントを行った。モリーノ教授の講演に関連して比較政治学的な研究については、筆者がコメントをした。その際に、筆者はモリーノ教授への質問の前提として、

CONTENTS

1. 巻頭言:

International Symposium on Political Economy

2. 2011 年度ランチタイムセミナー報告

3. 2011 年度業績報告

4. 『政治経済学の新潮流』刊行のお知らせ



本拠点が行っている政治経済学実験の成果である日本における Social Capital の東日本大震災の前後における変化を紹介した。船木由喜彦教授と Róbert F. Veszteg 准教授が行った Web 調査における政治経済学実験が、ちょうど 2011 年 3 月 11 日の前後にわたって行われていた。そのために、この Web 調査上の政治経済学実験は東日本大震災の回答者 (被験者) への影響を測定することが可能になった。具体的には、東日本大震災の後では回答者の協力的な態度 (Social Capital の一要素) が、大震災前よりも高くなっていたことが、実験結果から示されたのである。

このように、本年4月に行われた「International Symposium on Global Political Economy」の国際シンポジウムは、現時点での比較政治経済学と国際政治経済学の世界水準の研究を紹介できたばかりでなく、本拠点における教育研究活動がそれらの世界的な水準の研究に貢献する内容をもっていることを、明確に示すことが出来た。また、本拠点の研究協力者である古城佳子教授（東京大学）も、非常に詳細なコメントを国際政治経済学の第一人者であるヘレン・ミルナー教授に対して述べてくださった事で、我が国の国際政治経済学の世界に示すことが出来たと考えられる。

報告者が、2名の基調講演と2名の討論者だけという規模は小さなシンポジウムであったが、多くの方が聴衆として来てくださったことを感謝したい。このように今回の国際シンポジウムが成功裏に終わったことは大変に喜ばしいことであった。その成功の影には、本拠点 GLOPEII 事務局のスタッフのメンバーと助手の皆さん、ならびに院生諸君の献身的な協力と貢献があったことを強調して、お礼の言葉に代えたい。



ヘレン・ミルナー教授
(Princeton University)



レオナルド・モリーノ教授
(LUISS)



古城佳子教授
(東京大学)



2011 年度ランチタイムセミナー報告

2010 年度に引き続き、2011 年度においても昼休みを利用したランチタイムセミナーを開催した。現在進行しているプロジェクト・GLOPE II の運営についての提案、教員・院生による研究発表など、学外講師を招いての講演会などをおこない、活発な議論が交わされた。そのうち、研究発表と講演会の内容を以下に抜粋する。(※所属は発表当時のものであり、敬称は省略させていただいた。)

2011 年 5 月 10 日 山崎 新・三村 憲弘 (早稲田大学政治学研究科)

反論提示実験の分析～政治的議論によって政策態度が変化するメカニズム～

山田 恭平氏 (Ph.D Candidate, Yale University)

記述的規範と投票行動：サーベイ実験の結果報告

2011 年 5 月 17 日 船木 由喜彦・Róbert F. Veszteg (早稲田大学)

Prudence and Trust

2011 年 5 月 24 日 田中 知美 (アリゾナ州立大学)・飯田 健 (早稲田大学)

政党に対する期待形成のメカニズム

2011 年 5 月 31 日 孫 豊葉 (早稲田大学経済学研究科)

Introduction of a useful data set (PSFD)

2011 年 6 月 7 日 矢内 勇生 (早稲田大学教育総合科学学術院)

有権者にとって増税とは何か：ウェブ調査の結果報告

2011 年 6 月 14 日 陳 雅静 (早稲田大学経済学研究科)

School choice with degrees of freedom

2011 年 6 月 21 日 梅田 道生 (日本学術振興会特別研究員 (PD) / 東京大学法学政治学研究科)

Moving the Mountain: Strategic Small-Party Nominations to Shift Major-Party Policy Position under Plurality Electoral System

2011 年 6 月 28 日 大藪 博記 (日本学術振興会特別研究員 (PD) / 早稲田大学経済学研究科)

Cultural differences in the effects of smiling on judgments of trustworthiness

2011 年 7 月 5 日 弦間 正彦 (早稲田大学社会科学総合学術院)

Understanding production behavior: results from a field survey: Health Condition, Risk Preference and Productivity in Vietnamese Agriculture

2011 年 7 月 12 日 鈴木 寛 (文部科学副大臣)

実践知と制度構築

2011 年 7 月 19 日 Willy Jou (早稲田大学高等研究所)

Citizens' Voice in Electoral System Choice

2011 年 7 月 26 日 尾崎 敦司 (早稲田大学政治学研究科)

Who Survives?: Electoral System, Dominant Party System, and Ministerial Turnover in Italy between 1948 and 1992

2011 年 9 月 27 日 Rodney Smith (Department of Applied Economics, University of Minnesota/ 早稲田大学日米研究機構客員上級研究員)

Economics of Rice Quota Trading: Niigata and the Rest of Japan

2011 年 10 月 4 日 高橋 直浩 (早稲田大学経済学研究科)

Risk perception and consumer behavior toward BSE

2011 年 10 月 11 日 Xiangfeng Yang (GLOPE II 国際研究員)

Abundant Peace/ODA, Absent Democracy: The Developmentalist Logic of Japanese Approach to Global Governance

- 2011年10月18日 Luigi Curini (GLOPE II 国際研究員 / Università degli Studi di Milano)
The role of valence issues in party-competition focused on corruption issues: a (wide) comparative analysis using electoral manifestos
- 2011年10月25日 河合 晃一 (早稲田大学公共経営研究科)
日本の自由貿易協定をめぐる省庁間紛争の分析：通商交渉規則の影響について
- 2011年11月1日 竹内 あい (早稲田大学政治経済学術院)
Learning away from the dominant strategy: experimental analysis of a public goods game with punishment institution
- 2011年11月8日 石崎 浩 (読売新聞社)
迷走する公的年金制度改革—民主党政権下の議論状況を読み解く—
- 2011年11月15日 井上 智洋 (早稲田大学政治経済学術院)
長期デフレ不況はなぜ起こるのか？
- 2011年11月22日 小島 崇志 (早稲田大学経済学研究科)
Evaluating infinite utility streams with domain restrictions
- 2011年11月29日 堀江 哲也 (上智大学・環境と貿易研究センター)
Optimal Detection Strategies for an Established Invasive Pest
- 2011年12月6日 斉藤 尚 (早稲田大学政治経済学術院)
道徳的責務としてのアローの社会的順序
- 2011年12月13日 Luigi Curini (GLOPE II 国際研究員 / Università degli Studi di Milano)・日野 愛郎・尾崎 敦司 (早稲田大学)
Estimating Japanese Parties Policy Position: Computer-Assisted Scaling of Legislative Speeches
- 2011年12月20日 陳 雅静 (早稲田大学)
Strategy-proof Boston Mechanism
- 2012年1月17日 東島雅昌 (ミシガン州立大学)・豊田 紳・安井清峰 (早稲田大学政治学研究科)
Taking Voters' Seriously: Electoral Cycle of Inter-State Disputes Initiation and Settlement

2011 年度業績報告

(※事業推進担当者、研究・院生協力者の2011年度研究業績を一部抜粋した。)

- Blais A., Lachat, R., Airo Hino, and Doray-Demers, P.**, "The Mechanical and Psychological Effects of Electoral Systems: A Quasi-experimental Study," *Comparative Political Studies*, 44(12): 1599-1621, 2011.
- Bossert Walter and Kotaro Suzumura**, "Multi-profile Intergenerational Social Choice," *Social Choice and Welfare*, 37(3): 493-509.
- Bossert Walter and Kotaro Suzumura**, "Rationality, External Norms, and the Epistemic Value of Menus," *Social Choice and Welfare*, 37(4): 729-742, 2011.
- Bossert Walter and Kotaro Suzumura**, "Revealed Preference and Choice under Uncertainty," *SERIEs*, 3(1/2): 247-258, 2012.
- Brink Rene van den, Yukihiko Funaki and Yuan Ju**, "Reconsidering Marginalism with Egalitarianism: Consistency, Monotonicity, and Implementation of Egalitarian Shapley Values," *Social Choice and Welfare*, Forthcoming.
- Curini Luigi. and Airo Hino**, "Missing Link in Party-system Polarization: How Institutions and Voters Matter," *Journal of Politics*, 74, 2012. (doi:10.1017/S0022381611001721).
- Enomoto Hikoe, Yukichika Ohnishi, and Katsuhiko Ota**, "Spanning Trees with Bounded Total Excess," *ARS Combinatoria*, 102: 289-295, 2011.
- Grabisch Mischel and Yukihiko Funaki**, "A Coalition Formation Value for Games in Partition Function Form," *European Journal of Operational Research*,

- Forthcoming.
- Hino Airo and Ryosuke Imai**, "Ranking and Rating: Neglected Biases in Factor Analysis", *International Journal of Public Opinion Research*, forthcoming.
- Hino Airo**, *New Challenger Parties in Western Europe: A Comparative Analysis*, London: Routledge, 2012.
- Kamijo Yoshio and Takumi Kongo**, "Whose Deletion Does not Affect Your Payoff? The Difference between the Shapley Value, the Egalitarian Value, the Solidarity Value, and the Banzhaf Value," *European Journal of Operational Research*, Forthcoming.
- Kamijo Yoshio**, "The Collective Value: A New Solution for Games with Coalition Structures," *Top*, Forthcoming.
- Kongo Takumi, Yukihiko Funaki, Rodica Branzei and Stef Tijs**, "A non-cooperative and an axiomatic characterization of the AL-value," *International Game Theory Review*, Forthcoming.
- Kubo Keiichi**, "Kosovo: Secession under UN Supervision," and "Secession and ethnic conflict" in Aleksandar Pavkovi? & Peter Radan, eds., *Ashgate Research Companion to Secession*, chapter 9 and 11, 171-186, 207-226, Ashgate, 2011.
- Miyagishima Kaname**, "Ranking Linear Budget Sets with Different Available Goods: A Note," *Mathematical Social Sciences*, Forthcoming.
- Nagata Ryo**, "Organizational Dynamics with Symmetric Responses of Members," *Mathematical Social Sciences*, 63(1): 43-49, 2012.
- Naoi Megumi and Ikuo Kume**, "Explaining Mass Support for Agricultural Protectionism: Evidence from a Survey Experiment During the Global Recession," *International Organization*, 65(4): 771-795, 2011.
- Sasaoka, Shinya, and Katsunori Seki**, "Democracy and Quality of Life in Asian Societies." *Japanese Journal of Political Science*. 12(3): 343-357, 2011.
- Shimizu Kazumi and Daisuke Udagawa**, "How Can Group Experience Influence the Cue Priority? Are-examination of the Ambiguity-ambivalence Hypothesis," *Frontiers in Evolutionary Psychology*, 2: 1-9, (doi: 10.3389/fpsyg.2011.00265.peer reviewed journal).
- Smith Rodney B.W., M. Gemma, K. Palanisami**, "Profit Based Efficiency Measures, with an Application to Rice Production in Southern India," *Journal of Agricultural Economics*, 62(2): 340-356, 2011.
- Toda Manabu**, "On the Fair Allocations in the Two-sided Matching Problems", 東京経大会誌第 271 号, 24-42 頁, 2011.
- Vyrastekova Jana, Yukihiko Funaki and Ai Takeuchi**, "Sanctioning as a Social Norm: Expectations of non-strategic sanctioning in a Public Goods Game Experiment," *The Journal of Socio-Economics*, 40 (6): 919-928, 2011.
- 荒井紀一郎・村上剛・河野勝, 「実験で比較する経済と政治—「勝ち馬に乗る」合理性をめぐる—」, 『経済セミナー』第 661 号, 2011 年.
- 飯島昇藏, 「訳者解説にかえて——『政治哲学とは何であるか?とその他の諸研究』の完全邦訳」
- 飯島昇藏・厚見恵一郎・村田玲共訳, レオ・シュトラウス著『哲学者マキアヴェッリについて』, 勁草書房, 2011 年.
- 飯島昇藏, 「訳者解説にかえて——『政治哲学とは何であるか?とその他の諸研究』の完全邦訳の実現に向けて——」, 『政治哲学』, 第 10 号, 84-94 頁, 2011 年.
- 飯田健, 「計量分析を初めて学ぶあなたへ」, 鴨川明子編著『アジアを学ぶ: 海外調査研究の手法』, 勁草書房, 17-30 頁, 2011 年.
- 飯田健・松林哲也, 「選挙研究における因果推論の研究動向」, 『選挙研究』第 27 巻 1 号, 101-119 頁, 2011 年.
- 伊東孝之, 「第三の民主化の波におけるポーランド「連帯」運動」, 関口時正・田口雅弘編『ポーランド「連帯」運動とその遺産—民主化と変革—』, ふくろう出版, 17-27 頁, 2011.
- 井上智弘・上條良夫, 「家計の金融資産選択に与える課税の影響: 推計実効税率に基づく実証分析」, 『証券研究』, 2012.
- 井上智弘・上條良夫, 「家計の金融資産選択に与える課税の影響: 推計実効税率に基づく実証分析」, 『早稲田経済学研究』第 70 号, 2011.
- 今井亮佑, 「選挙運動支出の有効性」, 『年報政治学 2011-II』, 11-32 頁, 2011 年.
- 今井亮佑・日野愛郎, 「『二次的選挙』としての参院選」, 『選挙研究』, 第 27 巻第 2 号, 2011 年.
- 遠藤晶久, 「社会科学におけるコンピュータ支援型自記式調査の可能性: 訪問型 CASI 調査とウェブ

- 調査の比較」、『早稲田政治公法研究』, 第 98 号, 1-16 頁, 2011 年.
- 川岸令和, 「座談会 合衆国最高裁判所 2009-2010 年開廷期重要判例概観」, 『アメリカ法』, 2010 年第 2 号, 271-345 頁, 2011 年 6 月.
- 川岸令和, 「政権交代—アメリカ合衆国の場合」, 『憲法問題』, 第 22 号, 三省堂, 7-20 頁, 2011 年.
- 川岸令和, 「第 1 章 憲法総論」「第 5 章 包括的権利」「第 1 3 章 内閣」, 川岸令和・遠藤美奈・君塚正臣・藤井樹也・高橋義人『憲法 第 3 版』, 青林書院, 1-18 頁, 73-100 頁, 293-312 頁, 2011 年.
- 川岸令和, 「日本国憲法研究 第 12 回 私人間効力」, 松本和彦・藤井樹也・長谷部恭男・大沢秀介・川岸令和・穴戸常寿, 『ジュリスト』, 第 1424 号, 68-86 頁, 有斐閣, 2011 年.
- 川岸令和, 「表現の事前抑制と検閲——表現の自由の源流、そしてその擁護のために」, 駒村圭吾・鈴木秀美編著『表現の自由 I ——状況へ』, 尚学社, 161-196 頁, 2011 年.
- 魏芳, 「国際的株式相互持合と戦略的貿易政策の一考察」, 『北九州市立大学商経論集』, 第 46 巻第 3-4 号, 2011 年.
- 久保慶一, 「旧ユーゴスラビア諸国の政党システム—専門家サーベイの結果にもとづく政党の「政策位置」の測定」, 仙石学・林忠行編, 『ポスト社会主義期の政治と経済—旧ソ連・中東欧の比較』, 145-176 頁, 北海道大学出版会, 2011 年.
- 久保慶一, 「比較政治学の方法論」, 『早稲田政治経済学雑誌』, 第 380 号, 9-15 頁, 2011.
- 河野勝・須田美矢子, 「(対談) 政治と経済をつなぐもの」, 『経済セミナー』第 661 号, 2011.
- 小西秀樹, 「コースの定理で読み解く日本の財政システムの問題点」, 土井丈朗編, 『日本の財政をどう立て直すか』, 日本経済新聞出版社, 2012 年.
- 齋藤純一・田村哲樹編著, 『アクセス デモクラシー論』, 日本経済評論社, 2012 年.
- 坂野慎哉, 「ADF-GLS 検定とその背景」, 『早稲田商学大谷孝一教授古稀祝賀・退職記念論文集』, 第 431 号, 2012 年.
- 笹倉和幸, 「ピグーの失業理論とケインズの雇用理論」, 田中愛治監修, 須賀晃一・齋藤純一編著, 『政治経済学の規範理論』, 151-167 頁, 勁草書房, 2011 年.
- 清水和巳, 「疎開させるか／疎開させないか—選択当事者としての視点」, 『震災後』に考える、「原発」に向き合う視点』, 早稲田大学ブックレット, 2012 年.
- 須賀晃一, 「社会的選択理論と政策決定」, 『経済セミナー』, 第 661 号, 2011 年.
- 須賀晃一・齋藤純一編著, 『政治経済学の規範理論』, 勁草書房, 2011 年.
- 鈴木興太郎, 「危機対応のための公共的選択の課題—一次善の経済政策の構想と実装」, 鈴木興太郎・須賀晃一・河野勝・金慧『復興政策をめぐる正と善』, 早稲田大学出版部, 2012 年.
- 鈴木興太郎・須賀晃一・河野勝・金慧, 『復興政策をめぐる《正》と《善》—震災復興の政治経済学を求めて』, 早稲田大学出版部, 2012 年.
- 孫豊葉, 「女性従業員の雇用管理のあり方—日系 A 社の人事データからの考察—」, 白木三秀編, 『チェンギング・チャイナの人的資源管理』, 白桃書房, 181-197 頁, 2011.
- 高井亮佑, 「アフリカにおける民主化—統計・ゲーム理論・事例研究による経験的検証(2)」, 『早稲田政治公法研究』, 第 98 号.
- 高井亮佑, 「ガーナ共和国における法制度改革—クフォー政権による「法の支配」確立の試み」, 『月刊アフリカ』, 2011 年冬号.
- 田口聡・上條良夫, 「監査制度の生成に関する実験比較制度分析: 米国型監査システムは経営者を誠実にするのか」, 『企業会計』, 2011 年 12 月号.
- 田中(坂部)有佳子, 「紛争後社会における民主化の進捗と国家建設—東ティモールの経験による考察—」, 『国際政治』第 165 号, 57-69 頁, 2011 年.
- 田中愛治監修・小西秀樹編著, 『政治経済学の新潮流』, 勁草書房, 2012 年.
- 田場弓子, 「FTA 締結と国内交渉」, 『政治経済学の新潮流』, 小西秀樹編, 『政治経済学の新潮流』, 勁草書房, 近刊.
- 友利厚夫・荒木一法・小西秀樹, 「賠償・防災・減災: 契約理論で原発管理のあり方を考える」, 河野勝ほか編, 早稲田大学出版会, 2013 年.
- 中井遼, 「国籍取得要件と政治的競争: モデル分析と事例研究」, 小西秀樹編『政治経済学の新潮流』, 勁草書房, 近刊.
- 西澤由隆, 「2009 年総選挙の投票行動—世論調査データにみる政権交代」, 『同志社法学』, 第 347 号, 253-293 頁, 2011 年.
- 東島雅昌・中井遼, 「新興民主主義国におけるナショナル・アイデンティティの変化」, 『アジア経済』, 近刊.
- 日野愛郎, 「ベルギーにおける連邦制改革と政治変容」, 佐藤竺監修, 金井利之・財団法人日本都市

センター編著『オランダ・ベルギーの自治体改革』,
第一法規, 113-135 頁, 2011 年.

統合の政治経済・環境協力』, 東洋経済新報社,
2011 年.

船木由喜彦, 『ゲーム理論講義』, 新世社, 2012 年.

山崎新・荒井紀一郎, 「政治的洗練性が規定する態
度の安定性」, 『選挙研究』第 27 巻 1 号, 120-
134 頁, 2011 年.

細貝亮, 「内閣支持率の時系列分析～93 年以降の
データを中心に」, 『よろん』, 第 77 号, 2011 年.

藪下史郎監修, 吉野孝・弦間正彦編, 『東アジア

(以上、2012 年 2 月時点のデータ)

政治経済学シリーズ『政治経済学の新潮流』刊行

2012 年 3 月に GLOPE II 政治経済学シリーズの一冊として
『政治経済学の新潮流』(勁草書房) が出版された。

本書は、早稲田大学 GLOPEII によるシンポジウムの成果を深
化・発展させ、作成された。最先端のゲーム理論や計量経済分
析を用いて、新たな「政治経済学」の構築を目指している。



田中愛治 監修・小西秀樹 編集

シリーズ刊行のことば

序章 政治経済学の古くて新しい潮流 【小西秀樹】

第 I 部 政策の信頼性

第 1 章 政府におけるコミットメント問題 【アミハイ・グレイザー】

第 II 部 選挙

第 2 章 国籍取得要件と政治的競争：モデル分析と事例研究 【中井遼】

第 3 章 官僚の情報提供における選挙の役割 【友利厚夫】

第 4 章 メディア・バイアスと投票行動の政治経済学的分析：サーベイ 【安達貴教・肥前洋一】

第 III 部 政策形成

第 5 章 環境政策と戦略的投票 【寺井公子・西村幸浩】

第 6 章 人口高齢化と再分配政策：社会的対立効果の理論分析 【宮澤和俊】

第 7 章 FTA 締結と国内交渉 【田場弓子】

第 IV 部 公共経済

第 8 章 公債発行シーリング・既得権・財政再建 【井堀利宏】

第 9 章 地方交付税は客観的に決定されているか：党派性バイアスの検証 【田村健一】

第 10 章 集権と分権の政治経済学：政策担当者出世欲とヤードスティック競争 【小西秀樹】

第 V 部 実験アプローチ

第 11 章 デュヴェルジェの法則の実験研究 【肥前洋一・犬飼佳吾・黒阪健吾】

第 12 章 制裁は社会的ジレンマを解決するか：実験経済学からの展望 【上條良夫・竹内あい・二本杉 剛】

第 VI 部 ミクロ的基礎

第 13 章 一般選好下の共通エージェンシーゲームにおける均衡間関係 【安達剛】

第 14 章 投票ゲームの解の遂行：政治的環境における提携形成と協力行動の分析 【横田義史】



G-COE GLOPE II

事業推進担当者

田中 愛治	政治学研究科	教授	飯島 昇蔵	政治学研究科	教授
藪下 史郎	経済学研究科	教授	弦間 正彦	社会科学研究科	教授
鈴木 興太郎	経済学研究科	教授	久米 郁男	政治学研究科	教授
須賀 晃一	経済学研究科	教授	戸田 学	社会科学研究科	教授
船木 由喜彦	経済学研究科	教授	上田 貴子	経済学研究科	教授
清水 和巳	経済学研究科	准教授	川岸 令和	政治学研究科	教授
河野 勝	政治学研究科	教授	坂野 慎哉	商学研究科	教授
石井 安憲	経済学研究科	教授	小西 秀樹	経済学研究科	教授
秋葉 弘哉	経済学研究科	教授	日野 愛郎	政治学研究科	准教授
永田 良	経済学研究科	教授			

早稲田大学 G-COE GLOPE II オフィス

〒169-8050

新宿区西早稲田1-6-1

早稲田大学早稲田キャンパス1号館308-2号室

TEL 03-3202-5193 FAX 03-5272-3481

E-MAIL: infoglope2@list.waseda.jp

URL: <http://globalcoe-glope2.jp/>